

# データ中心の業務分析手法

## データモデリングの基礎と演習(DC)

長年にわたる実務経験の中で、洗練された業務分析のノウハウと技術をお教えします

大規模化・複雑化する業務システム開発において、業務分析・要件定義作業は難易度を増すばかりです。

しかし、真に業務に貢献する業務システムを開発するためには、これら上流工程がとても大切です。

品質・コスト・納期についての問題を起こさないためにも、ユーザと情報システム部門・システムエンジニアが上流工程で業務を可視化し、共通認識を持つことが重要です。

業務の可視化で一番大切なことは、業務で使われている「データの構造」を明らかにすることです。

業務プロセスのインプットもアウトプットもデータです。

データの関連を明らかにすることで、業務で何をしているのか、業務と業務の関係がどうなっているのかが明らかになるのです。

本コースでは、業務で使用される情報(画面・帳票)を素材として、業務の本質を効率的に把握し、表現するデータモデリング技法(PLAN-DB)を学び、グループ演習により体験的に習得いただきます。

これは、他の記述法(UML・IDEF1Xなど)で表記する方にとっても、エンティティの切り出し方法など、大変参考になるコースです。

問題点抽出・新規設計の具体的な手順は、後編コース「新規業務設計のためのデータモデリングの活用(AC)」で習得いただきます。

管理者の方向けとして、1日目のみの受講も可能です。(講義のみ・演習なし)

前提条件(知識)： 特になし

対象者： ・業務分析・要件定義に取り組む担当者  
・概念・論理データベース設計に取り組む担当者

開催人数： 3名～

受講料： 135,000円/1名(税込) 管理者向け：50,000円(税込)

時間・日数： 9:30～17:30・3日間 管理者向け：1日間(初日のみ)

受講内容：

1日目：基本的な考え方と表記ルール

1. データモデルとは
2. 概念ファイル(エンティティ)と関係の認識
3. 関係の種類とその表現
4. データモデルの精緻化
5. 概念ファイル類型と構造図配置ルール
6. 加工データと処理プロセス

2日目：部分図作成の進め方と部分図演習

7. 帳票確認の進め方
8. 帳票分析の進め方

演習1(部分図演習)

3日目：部分図演習の続き、統合の進め方と統合演習

9. 統合の進め方

統合演習

注意事項

・当コースは「業務分析力・コミュニケーション力強化(VC)」と内容が重複しております。予めご了承ください。